

令和6年度第1回甲賀市スポーツ推進審議会 概要報告

1. 開催日時 令和6年8月21日（水）午後7時30分から午後9時15分まで
2. 開催場所 甲賀市役所別館 1階 101会議室
3. 出席者 委員 小澤委員、山崎委員、福井委員、大原委員、宇田委員、奥嶋委員、村上委員、赤尾委員、水野委員、圖司委員
以上10名
事務局 立岡教育長、教育委員会事務局柚口教育部長、福井次長、社会教育スポーツ課 伊東課長、森地課長補佐、藤谷係長、中村社会体育指導員、学校教育課 乾部活動地域連携コーディネーター
4. 傍聴者 なし
5. 会議次第 *報告事項
・甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
*意見交換
・中学校の部活動について
6. 配布資料 ・甲賀市スポーツ推進計画
・令和5年度から令和7年度までの重点施策
・資料1 甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
・資料2 甲賀市中学校部活動の状況と方向性について

8. 議事の概要

○会長、副会長の選出

選出方法について、事務局一任という意見があったため、会長に小澤委員、副会長に山崎委員を推薦し、承認を得た。

○報告事項 甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について

委員 学校施設開放の関係で中学校体育館について空調設備の整備が進んでいると聞いている。近年の気候変動による熱中症対策としての取り組みだと思うが、詳しく教えてほしい。

事務局 中学校6校への導入を計画しているが、これから工程を決めていく段階である。

事務局 中学校の空調設備の導入についての予算がつき、現在、工事発注の準備している。工事については、令和6年度中に終わるスケジュールなので、令和7年度から空調を使っていける環境になるよう取り組んでいるところ。

委員 小学校はどういう計画か。

事務局 小学校はまだ計画していない。現在、小中学校の再編二次計画を立てようとしているので、これも見ながらスケジュールを立てて取り組んでいく。一気にできればいいが、多額の予算

が必要なのでご理解いただきたい。

教育長 順番としては、小学校の特別教室に導入してから、体育館ということになると思う。

事務局 市内中学校への導入だけで8億円かかるため、ガス関連の国や県の補助金を使うことで、取り組んでいる。開放についても今後検討していくので、ご協力をお願いしたい。

委員 そのあとで社会体育施設に導入するのか。

事務局 当然そうなっていくと思う。社会体育施設などを中学校の部活動で使用しているところも多いので、財源も含め整備について計画していきたい。

委員 「競技スポーツの推進」の項にスポーツ指導者の育成が入っている。ここには研修会しか入っていないが、指導者は資格なしでは指導できない。現在はスタートコーチの資格を、研修を通じて取得している。大事な子どもの将来のために、指導できるのは資格のある指導者に限定している。こうした指導者は、これからの中学校の部活動の指導者としても必要な人材になる。指導者の研修については、私自身も研修の講師として入っている。ここには資格を取得している者でないと指導できないということを入れていただきたい。スタッフは指導者ではない。また、スポ少では2泊3日で兵庫県の山中に行き、近畿全域の200人くらいの子どもたちでの活動に参加した。競技だけでなく、スポーツに特化せずに自分の殻を破って飛び込んでいけるようにすることで、子どもたち自身のためになる。ここには競技だけではないことも入れていただくようお願いしたい。

事務局 いただいたご意見を反映させていただく。

会長 指導者資格の取得は講義が何日もあり大変だが、教員などの経験者では一部免除がある。対象が増えれば、資格取得者も増えていくと思う。

委員 若手の指導者をこれからは増やしていかなければいけないと思う。私の団でも7人くらいの指導者がいるが、若い指導者は一緒に動く。スポ少は小学校までと思われているかもしれないが、中学校も組織の中にある。甲南のミニバスには町外からも来ていただいている。今後、中学校の部活動の移行が入ってくると思うが、このことは後でお話したい。若い指導者と中学生により活性化していきたいと思っている。

委員 「スポーツ環境の充実」の項について、来年国スポ・障スポの大会があるが、フライングディスクやボッチャなど全国からたくさん来られる。階段の整備やトイレの数など十分整っているのか。

事務局 水口スポーツ森については、今年度改修工事をしている。周辺環境については、前年度に現場確認し、障スポ関係については主催者である県とも調整している。県としては、仮設対応できるところは仮設対応していきたいとされており、ボッチャの会場となる水口体育館の場合は、駐車場の車止めを一時撤去されるなど工夫して設計をされていると聞いているので、市としても連携しながら進めていきたい。

○意見交換 中学校の部活動について

委員 先生方の中で6割以上の方が同じように指導したいと聞き安心した。私たちの年代では当たり前のように部活動をしており、振り返ると、厳しかったけれど辛抱するとかここまではやるとかいったことをしみこませてもらったので、ありがたかったと思う。引き続き今まで通りに続けたいということになるが、そのためには教職員以外の指導員を増やすことが大事。特に外部指導者は4人とのことだが、どうしたら増やすことができるのか。人数はだれが決

めるのか。

事務局 毎年県から希望調査が来る。昨年度は10人希望したが、予算の関係もあり6人の配置となった。国の予算に応じて配分されると思う。どの市町もたくさんほしいと言っておられると思うので、希望通りの配置は厳しいと思う。

委員 国も子どもを大事にしようと言っているし、知事もそうおっしゃっているの、これに対して予算をつけていけるように進めていく。

委員 今の説明によれば、運営団体については、市というか学校が全面的にやっていただけるということだと思う。クラブがやるとすれば、サスケクラブの場合はバドミントンだが、実施団体としてのかわりで行けると思う。83の部活があると聞いたが、市としては外部指導者を10人希望されたが6人となった。今の切り替えとしては土日の地域移行だが、今の市の考えでは全体として移行していくという考え方だろうと感じているので、土日、平日にかかわらず取り組み、予算も組んでいただいている。将来的に全面移行となったら、83の部活動に対し、人材と人件費が必要。それに対し、県や国は心もとない数字を言っている。全体として育てるならばその分の予算を市が独自で持たなければならないし、投入していただいていると思う。そのあたりは、教員の採用から考えていただく必要がある。以前、部活動の指導はしないという人を教員として採用したという事例を聞いた。民間企業でいえば、特定の業務をしないが採用してほしいという人が採用されるはずがない。それが通っているというのは、まったく常識外れである。県が配置されるので、市の教育委員会ではどうしようもないが、人材不足の状態でそんな人が来ると、部活動の指導はしたくないという教員がすぐ増えることになる。やる気のない人に指導をさせても事故が起きるだけ。ひどい目にあうのは子どもである。市としては、厳しいけれどもこうやっていくということが伝わってきているので安心して取り組める。それから、今後、クラブが増えてくると思うのがeスポーツである。今はないが、オリンピック競技になれば入ってくる。県の会議でこの話題があり、依存性や内容的な課題もあるので線引きは必要だが、入ってくれば、指導、施設などの面で予算が必要になる。逆に言うと、受け入れやすいし、人材もコンピュータ学院などで育成されている。そうした人材が民間から出てくるとき、市としてどのような形で採用していくのか。人材の育て方について将来的な市の構想があれば聞かせてほしい。市職員、地域おこし協力隊、スポーツ協会の中で、企業連携の中でなど多くの形が考えられると思う。

委員 スポ少は中学校でも組織を作れる。東近江市ではスポ少として組織を立ち上げられ、7団くらいある。小学校、中学校を含めた団も30くらいあると聞いている。甲南の団に他地域からも来られているが、その子どもたちが今中学生で、部活動があまりできていないと言っている。資格者が7人いるので、地域の中の体育館を使用して、スポ少として立ち上げてみようかと思う。今年も他地域から来ている子どもたちが中学校に進学するので組織をつくれるか、東近江市の事例を教えてもらいながら、一回試行してみたい。時間的にはもう少し保護者等にご協力いただいての時間になるかもしれないが、来年度試行できないかと思っている。市にもご協力いただきながらしてみたい。今、子どもたちの話を聞いているので、できればそういう形ができないかと思う。校長先生ともお話ししており、部活動では大学生が来られているそうだが、毎回は来られない。予算をいただかなくても、団として組織を立ち上げるだけなのでボランティアでできる。そうしたことが可能であるということを皆さんにお伝えしたい。

会長 指導者、指導団体の発掘について、スポーツ協会には22の加盟団体がある。甲賀市の中ではそれぞれ競技団体であるので専門家の集まりと思っている。中には状況が厳しく、充実を図らなければいけない団体もあるが、そこを太くしていけば、指導者を中学校に派遣し、より専門的な指導をしていただける。高齢者も多いが、資格を取得し、キャリアの中で教えていく。もちろん若い方にも入っていただきたい。依頼があればそれを還元できるような体制を整えていかないといけないと思っている。それぞれの競技団体の専門家がいるという位置づけで協力できると思う。

委員 旧甲賀町の場合は中学校までスポ少だった。20年前にはできていたことである。例えば、クラブマネジャーは指導資格があり、クラブの中に有資格の人材がいる。その組織の使い方としては今おっしゃっていただいたところだと思う。

委員 中学校現場では、色々な課題等がある。先ほど説明いただいたが、部活指導員については年間総枠時間数が当初から決まっている。例えば、平日と土曜日の引率をされた場合は、1学期で総時間がなくなってしまう。昨年度は個別に外部指導者とお話しし、時間の調整もさせていただいたのが現状なので、部活指導員を増やせばいいという問題ではない。年間総時間の枠も大きな壁の1つである。合同部活動のカッコ書きは、すべて夏でいったん解消になった。新チームは秋以降になって、女子のソフトボールが水口と土山、軟式野球は甲賀と土山、甲南と信楽、水口は拠点で残っている。女子のバレーボールが土山と城山になったと聞いている。合同部活動についても毎年チームが変わっていくのが問題の1つである。合同部活動では、人数の多い学校が主体校になる。主体校の顧問は専門外でも監督になり、主体校でない顧問は専門であってもコーチにしかねない。そのあたりの問題も出てきている。教員の気持ちの中で、特に20代の教員については自分が中学、高校で部活に入っていないというケースが増えている。中学校、高校の時に成功体験をせずに教員になっているので、「部活動を平日、休日とも地域移行してほしい」と回答した教員の割合が38%という数字であるが、予想していたのはもっと多くて半々くらいかと思っていた。権利と義務の中で、働き方改革で部活動を指導したくないというのは権利であるが、子どもたちが部活動に入って活動している以上、子どもたちをしっかりと見る義務があるので、指導しなくてもいいからグラウンドや体育館に行ってくださいと若手の教員にいつも言っている。今後、教員の部活離れはどんどん進むことになる。加えて、水口中学校でも5年後には生徒数が160人減る。そうすると教員も10名くらい減るので、部活動の数も激減していくことが目に見えている。甲賀市としてもどういう形で部活動を継続していくのか、運営していくのが課題であるし、県中体連でも喫緊の課題となっている。ただ、この夏の軟式野球では甲賀セントラルが優勝した。中体連にクラブチームが出場でき、県で優勝するということも1つの方向性、指針という気がしている。甲賀市は隣接していない中学校ばかりなので、そのあたりが難しい課題だと思う。

委員 子どもにとって中学校の部活動というのは大きな問題である。6年生の担任をしているところは中学校の部活動をどうするのかよく話をした。中にはクラブチームに行く子どももいる。子どもたちは選択があればあるほど頑張れるし、糧になる。現実、部活動の指導については、教員も少ないので難しいと思うが、方向性をしっかりと考えていただければありがたい。外部指導者は保険が効かなかったように思う。仕事があれば来られないし、高齢だとけがの心配もある。

委員 完全に地域移行するのであれば教育という部分が課題となる。今まで教員として教えてもらっていた部分を外さないと指導できない。保護者を含め、選択技があると思うが、クラブチームの場合、中学校での部活動とは違いがある。地元の中学校では後援会の費用で補助が出ているのではないかと思うが、他の中学校だと厳しいようにも思う。市の予算の組み方の中でそういう具体的な数字も方針として決めていかないと全体を見誤ると思う。

会長 スポーツ長長官の講演に行ったが、地域移行すると言い切っている。本市ではアンケートを踏まえ、子どもたちに寄り添ってという方針を説明いただいたが、国はそのように言い切っている。

委員 国は予算を100億円つけると言っていたが、そうはなっていない。

会長 地域移行をするためには、相応の施設を用意する必要がある。そのことを思えば、外部指導や資格取得の補助などは安いものだと思う。

教育長 先ほどのお話は、中学校で部活動がない子どもたちのために、スポ少で受け入れを検討いただいているということか。

委員 部活動が十分に活動できない状態で宙ぶらりんになっているようなので、新たなスポ少の立ち上げをやりたい。1週間に3回くらい活動できると思うし、練習をちゃんとさせてあげたい。試合のことはこれから考えていく。

教育長 合同チームになったら、普段は各校で活動し、土日は集まるということになる。拠点校もしかり。土日には主体校に行くが、平日は各校での活動をお願いすることになる。来年からさっそく何回か野球を見てもらえる人をお願いしていくといったことが具体的に起こりだす。

事務局 部活動の地域移行は働き方改革が一因であった。部活動をそのまま地域で受けてほしいというのは無理があるので、地域連携を進めながら現在の部活動を続けていけるように考えている。

委員 ボランティアでは、長く続けていくことは難しい。予算が伴うようにして、システムとしてやっていかなければならない。

会長 この話題では意見が限りなくあると思うが、ある程度の方針を示していただいた。それぞれのお立場でのご意見があればどんどん事務局に言っていただくこととし、この場は収めたいと思う。

○閉会

以上